

会社の体力を知らない経営者は整備不良車に乗るドライバーだ!

とせろ気者目がくずので乗レに
 運めうにはの動つ物いてたも取
 転ブ八怖どに前く動をは後取
 席からド心うに手出するか
 飛キルパるこを離る。だ
 びさは二こくる。ん押
 出え付ツと。緩押だして何
 し付いクも。緩押だして何
 たいてに出来運やして人
 気いなる来運席ない加
 持れくこい配人て少
 ちばてと。い配人て少
 に：もだ一が々早しそ

の動らとの電ただ葉は
 いの動らとの電ただ葉は
 の動らとの電ただ葉は
 いの動らとの電ただ葉は

**自動車安全に走行できるのは、
 信頼できるブレーキがあるからだ!**

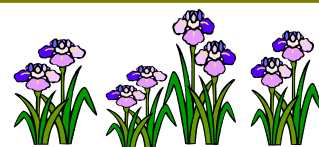
R.F.C

リスク・カウンセラー &
 ファイナンシャル・カウンセラー

Information & Report

2005.05.23 Vol.2005-05

【つよと盛開記】
 淡い黄色の柔らかな木香薔薇が枝いっぱい咲
 く小道を通ってきた。小ぶりの八重の花が漂
 優しく柔らかな香りはどこか気品が感じられる
 都内の数カ所にハラが咲く庭園がある。この時
 節になると、それぞれ工夫を凝らし夜遅くまで
 ライトアップしているようだ。ハラ愛好家にはそ
 の素直さがたまらないらしく、甘い香りも美しさ
 を求めて多くのハラ好きが集まっている。この界
 限の人が手入れをしているのだらうが、事務所前
 の舗道にも大きなランタナに植えられたハラが
 行き交う人の目を引くように旨事な大輪の花を咲
 かせている。通り過ぎた女子学生が戻って来て携
 帯カメラでフリンゴット。続いて私も一枚ハラを
 下町では三社祭だ。聞くと、この節や大鼓の祭
 り囃子が夏の始まりを告げている。(細野)



志で自動車の運転は楽しい。自分の意
 能操作をすることができるところ。自分の意
 志で自動車の運転は楽しい。自分の意
 能操作をすることができるところ。自分の意

社長が有能なドライバーならば、 ブレーキの大切さを知っている!

なるだろ。それではその物体に、
 高性能のエンジンが付いたらどんな
 ことになるだろ。か。想像したな
 いても恐ろしくて乗ることが出来な
 いだらう。

自動車はこれほどまでに普及した
 のは、主に牛馬の代替であったもの
 から、自在に操縦できる機能性や、
 経済性を高めるため、高性能が求め
 られてきた。そして、昨今では優雅
 さや美しさが評価されている。

清算貸借対照表をつくるのは、
 定期点検とオーバーホールだ!

自分の会社の規模や形態を忘れて、
 他社と同じ経営では経営は成り
 立たない。これは誰しも定まらな
 立たない。これは誰しも定まらな
 立たない。これは誰しも定まらな

自動車の利用する用途や目的に
 よって様々な車種がある。換言す
 り、目的に応じて車種を換えて利
 用する必要がある。換言す

ソロソロとアクセルを踏み走行
 を開始する。
 まだ運転に慣れていない頃は、ほ
 んの少進路の変更をする時、ほ
 たの少進路の変更をする時、ほ
 たの少進路の変更をする時、ほ

会社の決算申告の際に決算申告書
 表の作成を直ちに欲し、算借対照
 表の作成を直ちに欲し、算借対照
 表の作成を直ちに欲し、算借対照

企業が年に一回作成する「決算書」
 も、税務署に税額を申告するとい
 味どつと、安全な経営者自身で
 かどつと、安全な経営者自身で
 かどつと、安全な経営者自身で

どんなに快適に走行している自動
 車でも、定期点検を怠ると、適
 車でも、定期点検を怠ると、適
 車でも、定期点検を怠ると、適

木香薔薇(モッコウバラ)
 棘がなく花は直径25mm位。
 秋篠宮紀子様
 のお印としても有名な。

二匹のカエルの残酷物語。その結果は…。

問題をかかえて多くの方が相談に来られますが、大きく分けて2通りのケースがあります。

あれよあれよという間に問題がドンドン片付き、サッサと再起して次の仕事に取りかかっている人。また、いつまでたっても資料が整わず、だらだらと時間だけが過ぎ一向に問題が片付かないまま自分では始末がつけられず、家族全員を巻き添えにしている人。

少々残酷な内容ですがこんな話があります。ここに2匹のカエルがいます。そして目の前には火を入れた2つのコンロがあります。

そして…1つのコンロの上に「A」の鍋を置きます。「A」の鍋には冷水が入れてあり、そこに1匹のカエルが泳いでいます。スイスイと心地よさそうに泳いで…また一休み…の動作を繰り返しています。

さて、もう1つのコンロの上には「B」の鍋が乗せられています。ずいぶん前からコンロの上に乗せられていたのでグラグラとお湯が沸騰しています。そしてその沸騰状態の「B」の鍋にカエルを入れます。……。さあ！それから…15分後が経ちました。どちらのカエルが活着ているのでしょうか？……と云うお話です。**答えは「B」の沸騰状態の鍋に入れられたカエルが活着ていたと云うことです。**



熱湯に入れられたカエルは、あまりの暑さに驚き瞬発的に鍋の外に飛び出したことよって生きていたと云うことです。鍋で生きエビを茹でる時には鍋から飛び出さないようにすぐに蓋をしていますが、まさにカエルの例と同じことです。

それでは「A」の鍋でスイスイと涼しげに泳いでいた蛙はどうなったのでしょうか。はじめは冷水でしたが、徐々に水温が上昇して日向の水溜まりのような温度になります。カエルは少しずつ水温に慣れていくので、初めのうちは動きに大きな変化も見られません。しかし、やがて冷水がぬるま湯となり、更に温度が上昇してある温度をすぎるところになると、カエルは必死にもがくように鍋の中で動き回るとのことです。

そして、高い湯温によって筋肉の細胞組織が破壊され、カエルは動けなくなり間もなく死んでしまったとのことです。(いつもは自分で確認しないと気が済まないのですが…この事例ばかりは実験はできませんでした。教えていただいた話で恐縮ですがエビの例で自分なりに十分に納得できています。)

目先の心地よさを優先し… 今前の問題を先送りにしないで…



問題を抱えて駆け込んでこられる方にも、「A」の鍋のカエル状態に気がつかないままの経営者が結構いらっしゃるのです。徐々に売上が下がったあたりから、会社の

リスク・カウンセラー奮闘記

預金を取り崩したり追加融資をしたりで資金繰りをクリアできました。しかし、売上減少に対する問題解決は後回しのまま再び今まで通りの仕事を続けているのです。売上減少に対処すべく行動をしていないのですから、資金繰りが改善さず再び何処かで資金を調達しなければならなくなっていました。やがて銀行への返済も滞りはじめ、当然追加融資を受けられなくなります。その後はサラ金からの調達が始まり、やがてノンバンクに駆け込んでも与信度がNG。そうなる街の裏金融のドアを叩くことになってくる。聴いてみると3年前からこの状態が続いていたというのです。

こういう人は「この仕事以外やったことがない何とか会社を残したい…」「親から受け継いだ家だから今のままこの家に住んでいられないか…」「家族もみんな同じ気持ちだ…」と、自分達の居心地のよいことばかりを考えていて、問題を根本から解決する行動を取ろうとしないのです。会

って打ち合わせをするたびに同じ話が出てくるが、まるで不可能な希望ばかりを云って帰って行きます。しばらく来なくなったので気になり、電話をかけて状況を確認するともっと大変なことになっていました。

息子や娘に頼んで、サラ金から借りさせてたり、親の借入の連帯保証人にして新たな借入をしていたのです。あれほどまでに新規の借入はしないと約束していたのに…。**残念ながらこういう人は、殆ど立ち直れないまま終焉を迎えこととなります。**

でも、こんな人ばかりではありません。徐々に売上が下がってきたところで取引先が倒産し不渡りになった…と相談にいらした社長がいました。この社長は判断が速いというか、目先の些細なことにこだわらないというか、実に思い切りが良くあっさりしたもので行動も早いこと早いこと。

まだ債務が残っている不動産がありましたが、今なら売却すれば手元に幾らか残るし、毎月の返済から解放されるのであればそれが一番スッキリする…とわずか3週間で売却してしまった。次は、会社にあった仕掛品や商品類もバツバツと売却し、賃貸で借りていた倉庫を空けて賃貸契約も解除してしまった。実に鮮やかな手際よさに、この社長なら必ず再起できる…と直感した。

目先の欲に溺れてしまうと普通なら見えていたはずのものまで見えなくなってしまうのでしょうか。

「A」鍋のカエルにならないように、マズイ！と感じたら問題を先送りせず潔い決断ができる経営者が再起への条件なのではないでしょうか。



事務所の前の舗道に咲いたバラ

R.F.C Information & Report・第017号 2005.05.23 No.2005-05

◇発行者 株式会社ホロニクス総研 〒113-0033 東京都文京区本郷1-35-12 かんだビル7階



◇責任者 代表取締役・リスクカウンセラー 細野 孟士 (t-hosono@holonics.gr.jp)

◇連絡先 Phone(03)5684-0021 Fax.(03)5684-0031

<http://www.holonics.gr.jp>

【ホロニック】(英: Holonic) 全体(ホロス)と個(オン)の合成語。すなわち組織と個人が有機的に結びつき全体も個人も生かすような形態をいう。生物は個々の組織が自主的に活動すると同時に独自の機能を発揮する一方でそうした個が調和して全体を構成する(小学館「カタカナ語の事典」より)